

令和7年度 大田区立志茂田中学校 自己評価 報告

○ 本校の概要

〈出身小学校〉○志茂田小 ○新宿小 ○西六郷小 ○道塚小 ○仲六郷小 他
 〈学級数・生徒数〉 通常級 15学級(各学年5学級)、特別支援学級 3学級 全校580名(令和7年9月1日現在)
 〈生徒の様子〉○校内に活気があり、何事にも一生懸命に取り組む姿勢がある。素直で優しい気持ちの生徒が多い。 ○日々の授業に対する態度は真面目である。○学校行事や部活動などの特別活動に一生懸命に取り組む生徒が多い。
 〈地域の様子〉○大規模な繁華街に隣接しているが、本校の地域は静かで教育環境の整った落ち着いた住宅地である。 ○地域住民は地元愛が深く、地域力がとても強力である。 ○保護者や地域は、学校に理解を示し、大変協力的で様々な面で支援してくれる。
 〈目指す学校像〉 生徒一人一人の個性が開花する学校 ～「居場所づくり」「きずなづくり」～

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組	学校関係者記入欄		
								評価	人数	コメント
生予個 き測別 力難標 をな1 育未成 来社 会を 創造 的に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。 ②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。 ③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	〈保護者及び生徒対象のアンケート調査を実施〉 4: 問題解決力、他者との協働、情報活用能力に関する肯定的な回答が80%以上	4: 80%以上	○地域人材と協働しながら、多様な体験活動を通して社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え他者と協働し問題解決を図る授業を展開した。 ・防災をテーマに危険を回避し、自分の身を守る行動がとれるよう、避難所開設体験では、数学的な見方・考え方や美術や技術で学んだ設計的な視点を生かしたくさんの人が収容できる段ボールでハウスを作成するなど教科横断的な学びを実践した。また、体験で学んだことを、生徒自ら考え、生徒朝礼等で発表する機会を設定した。 ・運動会や合唱コンクールでは生徒が自ら考え判断する力を育成できるように、実行委員が中心となり主体的に練習を計画している。そのなかで、同じ学年だけでなく上級性と下級生が一緒になり、協働する機会や取り組みを自己評価し振り返る機会を設定している。 ・ICT支援員や講師を招聘し、「AIアプリを活用した学び」について校内研修を実施した。小中連携の機会では、ICT分科会から、小学校及び中学校で「AIを活用した学び」をテーマに授業を実施し、協議を行った。 ・英語科では情報活用能力の育成をテーマに、ICTを活用した全員参加型の授業について、1月に研究発表を実施し、研究協議を行った。	A	11	・地域の防災に係る関係部署と連携し、体験活動の充実を進め、そのなかで、教科横断的な学びを進めているのは素晴らしいと思います。文化祭・展示発表会にその取り組みの内容をまとめたものが掲載されていましたが、子ども達が主体的に学んでいる様子が現れていました。また、このような体験をしておくことは子どもの生きる力の育成にも多いにかかわってるところだと思います。 ・文化祭・展示発表会にて、タブレットを活用した学びが発表されていました。ゲームとして取り組める部分もあり人々を集めていました。これからはこのような作品が増えていくことだと思います。 ・生徒の現在、将来のため、本気で取り組む先生方の真剣さ、を感じます。 ・防災について、地域との協働を通し、教科横断的な学びを実践した事は、多角的な学びと評価できる。 ・PTAの方も含め学校も新しい事に挑戦していて、子どもたちにとって良い新しい学びになっていると思います。
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。							
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	3: 問題解決力、他者との協働、情報活用能力に関する肯定的な回答が70%以上	4: 70%以上				
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。							
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	2: 問題解決力、他者との協働、情報活用能力に関する肯定的な回答が60%以上	4: 60%以上				
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。							
4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	1: 問題解決力、他者との協働、情報活用能力に関する肯定的な回答が60%未満	4: 60%未満							
3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。										
2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。										
1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。										
お世個 お界別 たと目 をつ標 担な2 うが 人 材を 際育 都成 市し ます	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協働していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。 ②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。 ③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	〈保護者及び生徒対象のアンケート調査を実施〉 4: 英語力、コミュニケーション能力、互いに尊重し合う心、持続可能な社会を形成する態度に関する肯定的な回答が80%以上	4: 80%以上	○国際文化とともに我が国の伝統文化を学ぶ機会を設定し、現代社会における地球規模の課題に向けても視点をもてる授業を展開した。 ・英語科では英会話指導の充実などALTを効果的に活用したコミュニケーション能力や国際感覚の育成を図っている。今年度は、授業外でもALTの先生と英会話を実践できるEnglish Caféを実施した。 ・大田区立中学校生徒海外派遣事業や連合学会の英語の発表では、海外の生活や文化の理解を図るという目的を踏まえ、今年度はスピーチの発表ではなく、旅行者と旅行を紹介する業者の役割を設定し、多人数でのプレゼンテーション発表を行い、他の生徒にも集会にて共有を行った。 ・少人数授業の良さを生かし、言語活動の充実にも努めている。小集団での言語活動だけでなく、教員とALTとの面接形式での英会話の機会など様々な場面を設定している。 ・修学旅行や移動教室の事前学習、プロジェクトアドベンチャーなどの取組を通してグループのメンバーや他者について理解を深める活動を行ない、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。 ・社会科や総合的な学習の時間の授業では、環境、人権、平和など世界や地球規模の課題を自分事として捉え、食品ロスや省エネについて考えた。	A	11	・連合学会会の発表では、他の学校がスピーチ中心の発表が多いなか、志茂田中学校はパワーポイントを活用し、オリジナリティあふれる発表を行っている点、そして、様々な国の魅力を発表し伝えることができていたのが印象的でした。国際文化に興味をもつきっかけになったのではないのでしょうか。 ・英語の授業でゲーム感覚で楽しく慣れ親しみながら、生徒が参加しているのが印象的でした。 ・外国語＝英語、にとどまらずに、国際面のダイバーシティ重視の観点から、中国語、ハンガール、アジアアフリカ諸語、欧州諸語にも触れる機会を設けてください。 ・EnglishCafeや海外派遣等、少人数のみの関わりと捉えがちな取り組みについて、創意工夫を図り、それぞれに取り組んだ内容が国際感覚の育成に繋がっていると実感する。特段、海外派遣事業では、これまでのスピーチ発表から多人数でのプレゼンテーション発表とした事で、他生徒も学ぶ事ができ、共有を行った事は評価できる。
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。							
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	3: 英語力、コミュニケーション能力、互いに尊重し合う心、持続可能な社会を形成する態度に関する肯定的な回答が70%以上	4: 70%以上				
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。							
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	2	2: 英語力、コミュニケーション能力、互いに尊重し合う心、持続可能な社会を形成する態度に関する肯定的な回答が60%以上	4: 60%未満				
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。							
た一個 人別 のひ目 基と標 礎り3 がな 個性 力と を能 育力 成を し発 揮す る	児童・生徒が豊かな人生を生き抜いていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。 ②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべてのこどもに確かな学力の育成を図っている。 ③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。 ④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	〈保護者及び生徒対象のアンケート調査を実施〉 4: 豊かな心、学力、生活習慣の確立、小中一貫に関する肯定的な回答が80%以上	4: 80%以上	○「自ら学び、ともに考え、自分や人を大切に、心身ともに健康なこども」とし、「知」「徳」「体」の視点から一貫性のある教育を推進できるよう小中で研究協議し、教育活動を進めた。 ・特別の教科道徳の授業では、内容項目に即しながら生徒が前向きに受けられるような授業の工夫に努めている。そのなかで、今年度は、「人や社会との関わり」をテーマに道徳授業地区公開講座を実施した。 ・数学と英語で少人数授業を実施し、習熟度や個に応じた指導を実践した。そのなかで基礎クラスには具体物や視覚的な教材に触れる機会を増やし確かな学力の定着を図った。 ・授業以外での自主的な学習については、定期考査や各種検定前の補習教室を開催した。 ・年間を通し、英語検定、漢字検定、数学検定を自校で実施した。 ・規則正しい生活習慣の確立へ向けて、給食だより等による食育や「早寝・早起き・朝ごはん」の取組の充実を図り、「早寝・早起き・朝ごはん」チェックシート、タブレット端末を活用した健康チェック表の活用などを行い望ましい生活習慣についての意識啓発を行った。 また、保健体育科の授業や部活動等で、スポーツに親しむ態度の育成を図った。体力向上については、体育の授業や休み時間、部活動等で体力向上を目指して効果的に身体を動かす機会や場の設定をするため体育館解放などを実践している。 ・確かな学力、豊かな心、健やかな体(知・徳・体)の視点から、義務教育9年間を連続した教育課程として捉える試みや「小中一貫教育」の視点に立った取組を積極的に推進した。また、校区の他小学校2校との小中連携についても、目指すこども像を「自ら学び、ともに考え、自分や人を大切に、心身ともに健康なこども」とし、「知」「徳」「体」それぞれに関連して10の分科会を設け、授業や取り組みを実施した。	A	10	・科学技術の発展進展を鑑みれば、理数系シフトも重要ですが、教養一般、リベラルアーツ習得も依然大事なことと考えます。 ・「知」「徳」「体」の視点から小中での研究協議を行った事や「早寝・早起き・朝ごはん」の取り組みを通し、健康チェックを実践し生活習慣についての意識啓発を行った事、校区の小学校との授業や取り組みを実施したことは、「目指すこども像」の意識が深まった事と評価できる。 ・評価は4でも良いのではないかと思うのですが・・・課題は色々あるとは思いますが、志茂田の先生たちの評判は良い様です。 ・少人数授業を実施し、一人一人に応じた指導を実践していることは素晴らしい。継続してもらいたい。
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。							
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	3: 豊かな心、学力、生活習慣の確立、小中一貫に関する肯定的な回答が70%以上	4: 70%以上				
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。							
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	2: 豊かな心、学力、生活習慣の確立、小中一貫に関する肯定的な回答が60%以上	4: 60%以上				
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。							
4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	1: 豊かな心、学力、生活習慣の確立、小中一貫に関する肯定的な回答が60%未満	4: 60%未満							
3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。										
2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。										
1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。										

<p>学個別 校力目 標 4 教師力 を向上 させます</p>	<p>校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上させます。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。</p>	<p>①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。</p> <p>②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。</p> <p>③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>3</p> <p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>〈保護者及び生徒対象のアンケート調査を実施〉</p> <p>4: 授業改善、教職員の専門性、地域の特色、ウェルビーイングに関する肯定的な回答が80%以上</p> <p>3: 授業改善、教職員の専門性、地域の特色、ウェルビーイングに関する肯定的な回答が70%以上</p> <p>2: 授業改善、教職員の専門性、地域の特色、ウェルビーイングに関する肯定的な回答が60%以上</p> <p>1: 授業改善、教職員の専門性、地域の特色、ウェルビーイングに関する肯定的な回答が60%未満</p>	<p>4: 80%以上</p> <p>3: 70%以上</p> <p>2: 60%以上</p> <p>1: 60%未満</p>	<p>4</p> <p>○校内組織にICT委員会を設置し、ICTの活用をテーマに校内研修を実施し、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を進め、質の高い教育の実現を図った。</p> <p>・大田区教育推進校研究発表会等に全教員が一回は参加する機会を設定し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実による授業改善の取組について学ぶ機会を設定している。また、6月4日に実施した指導訪問では、「主体的・対話的で深い学び」、「児童・生徒用タブレット端末を使用した効果的なICT機器の活用」を重要項目に設定し、全教員で学習指導案を作成した上で授業を実施した。また、その後、授業カルーブリックをもとに授業を振り返り、7名の講師が加わった形で分科会協議を行った。</p> <p>・生徒対象の授業アンケート等を実施し、各教科で結果を分析し、授業改善プランを作成した。</p> <p>・紙芝居を中学生が小学生に読み聞かせする取り組みを行うなど、小学校と中学校が隣接している強みを生かして連携した活動を実施している。</p> <p>・部活動地域連携・地域移行に関するモデル校として、部活動指導員を活用した教員の負担を軽減し生徒と向き合う時間を確保する試みを実施している。今後もICT化の推進、夏季休暇取得推進期間での推進等、学校における働き方改革に取り組んでいく。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>C</p>	<p>11</p>	<p>・ICT等を活用した学びが急速に広がっている今、ICT委員会の働きは非常に大きいのではないかと。 ・志茂田の先生方の強み魅力である、学年軸、担務軸、教科軸のすべてで合議・結束を重ねること、チーム志茂田の精神を大切にしてください。 ・大田区教育推進校研究発表会等に参加する事で、全教員が学ぶ機会を設定した事や、客員教授が加わり、分科会協議を行った事は今後の指導の実践に生きる事と期待できる。</p>
<p>た自個 め分別 のら目 学し標 びく5 をいき 援いき ますと 生きる</p>	<p>困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えらるとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。</p>	<p>①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。</p> <p>②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。</p> <p>③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>3</p> <p>4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満の教員が回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満の教員が回答した。</p> <p>1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>〈保護者及び生徒対象のアンケート調査を実施〉</p> <p>4: インクルーシブ教育、いじめへの組織的対応、相談しやすい環境に関する肯定的な回答が80%以上</p> <p>3: インクルーシブ教育、いじめへの組織的対応、相談しやすい環境に関する肯定的な回答が70%以上</p> <p>2: インクルーシブ教育、いじめへの組織的対応、相談しやすい環境に関する肯定的な回答が60%以上</p> <p>1: インクルーシブ教育、いじめへの組織的対応、相談しやすい環境に関する肯定的な回答が60%未満</p>	<p>4: 80%以上</p> <p>3: 70%以上</p> <p>2: 60%以上</p> <p>1: 60%未満</p>	<p>4</p> <p>○特別支援学級を1組とし、他の2～6組とともに学校行事や委員会活動などの教育活動に取り組むなどインクルーシブ教育を推進した。</p> <p>・特別支援学級の生徒や本校に副籍を置く特別支援学校の生徒との交流を通してインクルーシブ教育を推進し、ノーマライゼーションの理念を実現しようとする態度を育成した。そのために特別支援学級の生徒とともに委員会活動を実施した。</p> <p>・年度当初に1年生にはスクールカウンセラーによる全員面談、全校対象の生活アンケート、学校生活調査・学級集団調査(Web QU)を、また「いじめ・悩みアンケート」を朝学活等にタブレット端末を使って実施し、課題の早期発見、即時対応に努めることができた。また、毎日の「一日日記」の取り組みを通じ、生徒一人一人の良さを見付け、成長を支え、生徒自身の自己肯定感を向上を支援しつつ内面理解を図った。この他年3回いじめに関する調査(ふれあい月間)や、人権教育等を通していじめの未然防止や早期発見早期対応に努めている。</p> <p>・カウンセラーやスクールソーシャルワーカー、子ども家庭支援センター、児童相談所等の関連諸機関との連携したケース会議を実施した。校内教育支援センター(別室)の取組では、校内委員会でも一人一人の生徒の状況をスクールカウンセラーを混じえた協議を行い、見立てをたてた指導を実施した。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>C</p>	<p>11</p>	<p>・先生方の熱意はよく承知しております。他の機関と連携する、任せるとも様々な点から重要かと存じます。 ・特別支援学級と共に、全学級で行う学校行事や委員会活動を通じ、インクルーシブ教育を推進した事、ノーマライゼーションの理念を実現しようとする態度の育成を図った事や、特別支援校内委員会に於いて、生徒一人一人の見立てをたてた指導を実施した事は評価できる。 ・時間や状況があえばですが、民生委員もケース会議に参加させて頂ければとも考えます(何が出来るかはわかりませんが・・・) ・校内教育支援センター(別室)の取組は素晴らしいと思う。来校するたびに、新しい試みが行われているのを実感した。</p>
<p>ま全柔個 す・軟別 安で目 心創標 な造6 教的な 育環境 を空 つ間 くとり り安</p>	<p>学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。</p>	<p>①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。</p> <p>②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>4</p> <p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>〈保護者及び生徒対象のアンケート調査を実施〉</p> <p>4: 問題解決力、他者との協働、情報活用能力に関する肯定的な回答が80%以上</p> <p>3: 問題解決力、他者との協働、情報活用能力に関する肯定的な回答が70%以上</p> <p>2: 問題解決力、他者との協働、情報活用能力に関する肯定的な回答が60%以上</p> <p>1: 問題解決力、他者との協働、情報活用能力に関する肯定的な回答が60%未満</p>	<p>4: 80%以上</p> <p>3: 70%以上</p> <p>2: 60%以上</p> <p>1: 60%未満</p>	<p>4</p> <p>○校内教育支援センター(別室)を設置するなど、一人一人の生徒が安全・安心して学習できる環境づくりを整えた。そのなかでICT機器を積極的に活用し、オンライン学習なども実施した。</p> <p>・校内教育支援センター(別室)の取組では、地域の民生委員や学生ボランティアと協働し、生徒が安全に安心して学習できる教育環境を整えた。</p> <p>・避難訓練では、自然災害が増加する中で、様々な場面を想定し、避難行動や災害への備えを実践的・体験的に学ぶことで、いざという時に役立つ力が身につくよう実践的な指導を行った。</p> <p>・交通事故の恐ろしさについて学ぶために、蒲田警察署と連携して、自転車事故などを再現して事故の恐ろしさをヒヤリハット体験するスケアード・ストレイトを実施した。</p> <p>・講師を招へいし、保護者対象に情報モラル教室を実践した他、生徒朝礼などでも、ICT機器の適切な使用法について継続的に指導した。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>C</p>	<p>11</p>	<p>・ITリテラシーは、生徒が犯罪被害に遭わないためにも大切です。 ・校内教育支援センターの設置や、状況に応じたオンライン授業を実施する等、地域民生委員や学生ボランティアとの協働を通じ、一人一人の生徒が安全・安心して学習できる環境づくり又、教育環境を整えた事は評価できる。 ・校内教育支援センター(別室)に参加させて頂き民生委員としても、私たちに何が出来るかを考えさせて頂く機会となりました。 ・これから、生徒一人一人に寄り添った教育環境を整えていくことは非常に重要だと思ふ。</p>
<p>学地学個 校域校別 をコ・目 つミ家標 くユ庭フ リニ・ ますイ 域の 核連 と携 して 協働 による</p>	<p>地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。</p>	<p>①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。</p> <p>②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。</p> <p>③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>3</p> <p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>〈保護者及び生徒対象のアンケート調査を実施〉</p> <p>4: 学校・家庭・地域との連携・協働、健全育成、安全指導、家庭教育に関する肯定的な回答が80%以上</p> <p>3: 学校・家庭・地域との連携・協働、健全育成、安全指導、家庭教育に関する肯定的な回答が70%以上</p> <p>2: 学校・家庭・地域との連携・協働、健全育成、安全指導、家庭教育に関する肯定的な回答が60%以上</p> <p>1: 学校・家庭・地域との連携・協働、健全育成、安全指導、家庭教育に関する肯定的な回答が60%未満</p>	<p>4: 80%以上</p> <p>3: 70%以上</p> <p>2: 60%以上</p> <p>1: 60%未満</p>	<p>4</p> <p>○令和6年1月よりコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)を導入し、生徒の健全育成や安全指導、生活指導に係る取組を地域の方々と協働し、教育活動を推進した。</p> <p>・地域の関係部署及びPTA等と連携して避難所開設体験を実施した。</p> <p>・学期の始めと終わりに学校と地域が育てたい生徒像や学校の教育活動を共有し、協議を重ねる機会を設定することで、教育活動の充実を図った。</p> <p>・学校関係者評価を活用し改善点を検討することで方針や方策を修正することにより、次年度の教育活動の改善につなげていく。</p> <p>・学校施設の有効活用と地域利用の観点から、学校教育に支障のない範囲で学校施設の開放を行い、地域コミュニティの核としての学校づくりを推進する。</p> <p>・PTAやおやじの会と連携し、地域のお祭りなどについて見守り活動を実施した。</p> <p>・学校評価アンケートの「学校に対する満足度(活動状況公開・家庭学習支援・地域との連携等)」への肯定的回答は教員は8割、保護者及び生徒は8割であった。今後も、毎週の「学年だより」、毎月の「学校だより」を発行し、保護者からの意見等を取り入れながら、教育活動の充実にも努める。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>C</p>	<p>11</p>	<p>・越境入学生徒が多くなっていることと、本来の校区町会との、不具合も課題となるかと思考します。 ・さまざまな関係部署やPTAとの連携に於いて、避難所開設体験を実施した事や、学校評価アンケートでの肯定的な回答について、教員、保護者及び生徒共に8割といった結果に安堵している。 ・地域人材と連携して防災などの新しい試みを実施しているのは非常に良いことだと考える。</p>

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。